



# やわらぎの鐘

青梅市立第一中学校  
学校だより第22号  
令和5年4月10日

——— 挑戦することを楽しもう！ ———  
無限の可能性をもつ85名の一年生 御入学おめでとうございます 校長 川窪 公夫

永山丘陵の木々の緑が輝きを増す中、在校生全員の出席のもと、こうして第77回入学式を挙行し、85名の新入生の皆さんをお迎えすることができました。心より、嬉しく思います。また、御来賓として、青梅市教育委員会を代表し、教育長 橋本雅幸(はしもと まさゆき)様に御列席をいただきました。ありがとうございました。

改めまして、新入生の皆さん、保護者の皆様、御入学おめでとうございます。また、在校生は、新入生の皆さんを温かく迎えようと式場づくりをはじめ、入学式の準備に一生懸命に取り組んでくれました。ありがとうございました。本校では、教育目標と校訓を全ての教育活動を進める上で拠り所(=支えとなる)としています。舞台の左側に掲示してありますが、教育目標は、「国際性豊かな よりよい 社会人を目指して———自ら学ぼう 感謝と思いやりの心をもとう 理想の実現に努めよう」。校訓は、「たゆまずあせらず おこたらず———目標・計画・勤勉」です。新入生の皆さんには、学校生活の中で理解を深めていってほしいです。そして、この4月より、新しく「振る舞い 輝く! 一中生」というスローガンが出来ました。全校みんなで、「振る舞い」という言葉を大切しながら、令和5年度も頑張っていきたいと思います。



さて、「挑戦することは楽しい。」この言葉は、先日、国民栄誉賞を受賞した国枝慎吾(くにえだ しんご)さんがNHKのインタビューの最後で語った言葉です。世界の4つの大きな大会とパラリンピックで優勝するという快挙を達成し、世界ランキング1位のままに昨年、現役生活を引退されました。国枝さんは、9歳のときに病気で両足に障害が残りました。お母さんの薦めで車椅子テニスに出会ったのは、11歳のとき、それから、30年間、世界のライバルと戦い、自身の怪我と戦って来ました。国枝さんのラケットには、「俺は、最強だ!」との言葉が書かれています。大事な場面で弱気になってしまう自分を奮い立たせるためです。「俺は、最強だ!」その陰には、病気や怪我と向き合ってきた苦しい時間がありました。国枝さんは、苦しいときにこそ、新たな挑戦を始め、数多くの困難を乗り越えて来ました。現役生活を引退した国枝さんは、水泳にも挑戦したいと語っていました。「挑戦することは、楽しい。」この言葉を新入生の皆さんに贈りたいと思います。

新入生の皆さんの中には、成功の反対は、失敗と思っている人がいるかもしれませんが、それは違います。成功の反対は、失敗ではなく、何もしないことです。失敗は、成功への通り道です。挑戦することが、皆さんの中にある無限の可能性を引き出します。何もしないことが、一番いけないことです。これから始まる中学校生活の何事にもどんどん挑戦してほしいと期待します。

話は変わります。昨年度の入学式の式辞でも話したことを伝えたいと思います。今の2年生の中には、覚えている人がいるかもしれません。それは、社会に出たときに、困難を乗り越える「へこたれない力」についてです。数年前、国立青少年教育振興機構という研究所が「へこたれない力」について、大規模なアンケート調査を行いました。その結果から、分かったことは、青少年時代に、褒められた経験も多いが、叱られた経験もあるという人が「へこたれない力」が強いということです。ですから、私達教職員は、皆さんをたくさん、褒めたいと思っています。また、叱るべきときは、きちんと叱りたいと思います。

また、「へこたれない力」とは、自分で何でもできることではありません。時に人を頼り、助けをもらいながら、困難を乗り越える力です。困ったときは、一人で悩まず、SOSを出してください。先生方もSOSを出しながら、大人になりました。

さあ、皆さん。3年後の卒業式を目指し、先輩・仲間たちと協力し、挑戦することを楽しみながら、教育目標にある「よりよい社会人」を目指して前進していきましょう。

結びに、保護者の皆様には、新入生の成長を見守っていただくとともに、本校の教育に御理解・御協力を賜りますことをお願い申し上げます。(令和5年度入学式 式辞より)